



練習は、楽しく、厳しく。 夢はデツカク横綱だ!!

宇土市花園小学校相撲部

「いちノにいいノさあんノ四股を踏む子供達の掛け声が白い息になります。まわし一つで練習に励むのは宇土市立花園小学校相撲部の子供達。土俵の周りをビニールで囲ってあるとはいえこの寒空の下、見ている方が肩をすぼめてしまいます。それでも、一年生から六年生まで二十八名の豆力士は元気ハツラツ。練習が進むにつれ、肌はつやつやピンク色あどけない顔が土俵に上るとビツと引き締り体には汗がにじみます。

今年十五周年を迎える花園小相撲部は、県内きっての実力校。県大会での優勝も数知れませんが、部員には県下のナンバー1、



ナンバー2を争う子がズラリ。当然練習も大変です。一年を通して休みは年末年始の五日間と試合の翌日だけであとは毎日練習。聞いただけではメ息がでそうですが、当の子供達はそう苦にしている様子。どうして?と尋ねると「だって好きだもん。」とあっさりしたもの。相撲部の生みの親で十五年間毎日指導を続けていた野村俊幸さんは語ります。

「子供を引っ張っていくには厳しいだけじゃダメ。一人一人の個性に合った指導をしていくことが必要だし一番大切なこと。この中には小児ゼンソクだったという子が何人もいますよ。好きになることが第一。『楽しく・厳しく』がモットーです。」
学校はもちろん後援会のバックアップも万全で、子供達はメキメキ力をつけています。

そんな相撲部にビッグニュースが届きました。彼らの先輩で日大四年生の本田浩二選手が学生チャンピオンになったのです。先輩の活躍に目を輝かせ、子供達の夢は大きくふくらみます。

